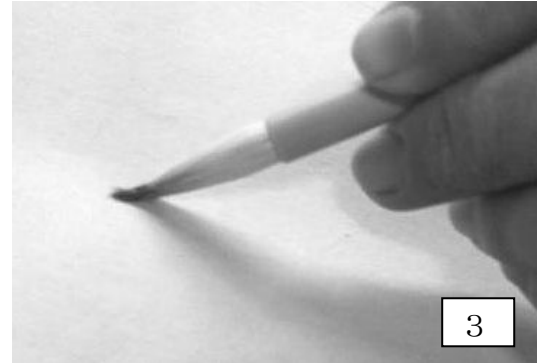
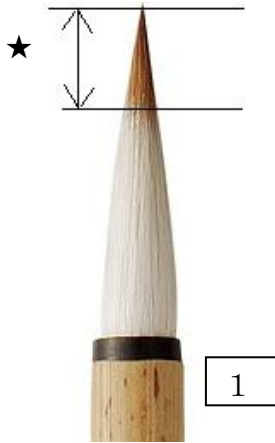


— 細筆のお取り扱い方法 —

1. おろし方

穂先から約 1/3 程度の部分までをおろします（写真1 ★部分くらいまで）。初めて使用する時は、親指と中指で筆の腰を持って支え、他方の手の親指と人差し指で穂先から徐々に曲げるようにほぐします（2）。おろしすぎると書きづらくなりますので、丁寧に行ってください。その後、わずかに水を含ませた柔らかな紙やティッシュ等に穂先を軽く押し付け、穂先を固めているフ糊を拭い取ります（3）。水を多くつけすぎると穂の中ほどまで水が入り全体のフ糊が落ちてしまうのでご注意ください。



2. 墨のつけ方

穂の先端を墨に浸け、吸わせるようにおろした部分まで墨を含ませます。このとき墨を多く含ませてしまうと、フ糊が溶けて穂の形が崩れてしまうのでご使用の際にはご注意ください。また、細筆は太筆と比較して乾燥が早いので、墨をつけた状態で穂先が乾燥してしまうと、穂の中ほどで墨が固まり、穂が傷んだり穂先が広がる原因に繋がる場合がございますので、離席する際にはご注意ください。

3. 使用後のお手入れ方法

細筆は穂の形が崩れると穂先がまとまらなくなりますので、基本的には水で直接洗わず、穂のフ糊を残すようにお手入れをいたします。ご使用の後には穂先の墨が固まる前に、ごく少量の水を含ませた半紙などを用い、紙を何度か換えて、形が崩れたり必要以上に穂先がおりたりしないように整えながら、穂先の墨を優しくふき取ります。もし穂に水を含ませたい場合は、直接水をつけることは避け、ごく少量の水を含ませた半紙などから、少量を吸わせるように穂に移してください。この時、水を穂に吸わせすぎるとフ糊が溶けて、必要以上に穂がおりてしまいますので、加減にご注意いただき慎重にお取り扱いください。また、穂が崩れるため流水では絶対に洗わないようにしてください。

穂先表面の墨を落とし、紙に移る墨が少し薄くなる程度に墨を減らしてから、癖がつかないように穂先を整え、穂を下にして、吊り下げて陰干しさせます。十分に乾燥させたのち、筆巻きに包むか、吊り下げたまま風通しの良い場所など、湿気の少ない場所に保管してください。

次回ご使用の際には、おろしている部分までを指で軽くほぐしてからお使い下さい。

ご注意

・筆は乾燥が充分でない場合や乾燥できない状態で保管いたしますと、腐敗などから「異臭」のほか、毛の傷みから「毛切れ」や「毛抜け」が発生することがございます。書写入門には耐久性に優れた人造毛用を使用し、腐りやカビの心配がなく学童にも取り扱いやすい「くれ竹優筆シリーズ」がおすすめです。

・穂先についている保護キャップは、一度穂先に墨をつけた後は捨てるようにしましょう。筆洗後、保護キャップをはめ込むと、水分が抜けないので腐敗の原因や、キャップで毛をはさみ込んで穂を痛める原因となります。